

2023 年度 金沢大学教職大学院フォーラム 報告書

	(頁)
◆ はじめに -----	1
◆ 全体会 ----- 「教職大学院の取組」	4
◆ 実践発表 ----- 「院生（修士2年）の修了研究グループ討議」	8
◆ 実践構想 ----- 「院生（修士1年）の研究テーマ」	23

はじめに

研究科長 大谷 実

金沢大学教職実践研究科では、石川県教育委員会との連携のもとで高度な専門職業人としての中核教員を育成するために、地域の特性や教育課題に照らして、特色あるコースや領域を設定し、「理論と実践の往還」を通して石川県の教育の発展に寄与する高度な専門職業人を輩出することを目指しております。本研究科では、「金沢大学教職大学院フォーラム」を年度末に開催し、全国・地域・県内の関係者皆さまに2年間の学修の成果を公開しております。今年度のフォーラムを準備していた令和6年1月1日、能登半島地方を震源とする最大震度7の激しい揺れを観測し、津波や火災も発生しました。この地震と津波の影響で、奥能登にある市町を中心に、甚大な被害が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

震災の被害が残る3月2日、皆様のご理解とご支援のもと、4年ぶりにフォーラムを対面により開催しました。今年度は、「学習デザインコース」と「学校マネジメントコース」の2コース制による最後の修了生による実践研究発表会となりました。本年度入学生より、2コース制を発展的に改編し、内容の多様性を総合する「探究教育」と、人の多様性を尊重する「共生教育」の2領域制に基づくカリキュラムを改編いたしました。本年度の実践研究報告書でも、探究や共生を視点とする実践研究が含まれており、コース制から領域制への自然な発展を垣間見ることができます。

当日は、開会にあたり、主催者を代表して森本章治理事・副学長より大学を代表してご挨拶を、また石川県教育委員会学校指導課長北島公之様よりご祝辞を賜りました。全体会では、本学教職大学院生が新しい教育課程の一端を紹介しました。続く分科会では、修了生14名が各自の実践修了研究について5つのグループに分かれて発表を行い、大学を含む教育関係者、実習連携協力校の先生方、そして附属学校園の先生方のご参加のもと、活発な質疑応答がなされ、講評として石川県教育委員会指導主事よりご指導・ご助言者いただきました。また、1年次院生は、各自の研究についてポスター発表を行い、参加者からご指導・ご助言を賜る機会を設けました。本報告書はフォーラム当日の修了生による発表概要、質疑応答、指導・助言の記録をまとめるとともに、1年次院生が作成したポスターを収録しております。是非お目通しいただき、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸甚に存じます。

半島地域における未曾有の複合的大震災を経験した地域に所在する教職大学院として、地震・災害に強く安全・安心で、だれもが住みよい、文化薫る地域・まちづくりとひとづくりに、教育を通して寄与することが、本研究科が未来から課せられた使命だと考えています。

最後になりますが、今回のフォーラム開催にあたり後援をいただいた石川県教育委員会ならびに石川縣市町教育委員会連合会、学校実習の連携協力校の管理職の皆様、ご参加下さいました皆様には格段のご支援とご協力を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

2023年度 金沢大学教職大学院

実践研究フォーラム 2023

日時

 令和6年 **3月2日** **土**
 12:45~16:15 [受付]12:30~

方法
対面
場所
**金沢大学
人間社会第2講義棟**

〒920-1192 金沢市角間町

 全体会 第2講義棟 402講義室
 分科会 第2講義棟 2~4階講義室


金沢駅兼六園口(東口)8番乗り場「金沢大学(角間)」行き乗車、「金沢大学(終点)」下車徒歩約3分(JR金沢駅から約40分)

**参加費
無料**
 事前申込み必要

プログラム

12:30	12:45	13:20	13:30	14:00	14:10	16:15
受付	ポスター発表	移動	全体会	移動	実践発表	

12:30~13:30

受付 (402講義室前)

12:45~13:20

ポスター発表 (1年次院生 10分×3)

13:30~14:00

全体会 (教職大学院の取組)

14:10~16:15

(グループごとに終了)

実践発表 (2年次院生)
5つのグループに分かれて発表

- ・ラウンド1 (5名) 14:10~14:45
- ・ラウンド2 (5名) 14:55~15:30
- ・ラウンド3 (4名) 15:40~16:15

写真提供：石川県観光連盟

【主催】金沢大学大学院教職実践研究科 (教職大学院)

【後援】石川県教育委員会 石川各市町教育委員会連合会

【お問い合わせ】金沢大学人間社会系事務部総務課 TEL: 076-264-5448

 E-mail: n-somu@adm.kanazawa-u.ac.jp <https://pdte.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

2023年度 金沢大学教職大学院 実践研究フォーラム 2023

実践発表は、グループに分かれて行います。
今回は対面での開催です。

※当日は、どのグループにもご自由にご参加いただけます。

実践発表内容

グループ	ラウンド	発表者	研究テーマ (変更される場合があります)
A	1	安達 千紗 算数〔小〕	小学校算数科における子どもの思考を支援する段階的な授業デザイン
	2	北田 幹人 社会〔小〕 (小松市立犬丸小学校)	個別最適な学びと協働的な学びを効果的に組み合わせた社会科授業 －児童自らが学びを進めるためのICT機器活用を目指して－
	3	田中 哲也 総合〔小〕 (金沢市立兼六小学校)	探究を支える教師の役割 －総合的な学習の時間における児童の探究過程の見とりを踏まえて－
B	1	川上 未有希 理科〔中〕	中学校理科における実験を通して科学的に考える力を育成する授業 －考察を書くための足場かけを通して－
	2	斎藤 美紀 外国語〔中〕	中学校外国語科における即興的な対話を促す授業デザイン －教師と生徒のインタラクションを起点として－
	3	坂井 美智子 外国語〔高〕 (石川県立志賀高等学校)	英語の授業における意見・考えの表出を促す指導方法の研究 －思考分類に基づく言語活動を通して、コミュニケーション能力の育成を目指す－
C	1	井尾 雅昭 道徳〔小〕 (白山市立蝶屋小学校)	道徳における自己評価力の育成 －ICTとOPPAの活用を通して－
	2	武藤 美紗希 国語〔高〕	多様な言語・文化背景を持つ生徒を含む高等学校における言語活動 －生徒間交流を促進する「国語表現」の授業実践－
	3	長谷川 鮎美 国語〔中〕 (野々市市立野々市中学校)	多様な子どもたちとともにデザインする国語科の授業 －自己決定の場を軸とした「読むこと」の指導実践から－
D	1	大井山 恵 特支〔小〕 (金沢市立戸板小学校)	小学校特別支援学級における発達障害児童の自己理解に関する研究
	2	小岩 正敏 (石川県立いしかわ特別支援学校)	知的障害特別支援学校高等部における多様な発達困難を有する生徒と担任教諭へのチーム支援の模索 －学年主任のコーディネートによる援助コアチームの運用と成果－
	3	吉藤 菜美子 (石川県立明和特別支援学校)	医療的ケア児の教育機会を保障するための教員と学校看護師の協働 －インフォームド・コオペレーションによる実践を通して－
E	1	橋本 優子 (石川県立金沢伏見高等学校)	生徒の当事者性をエンパワーする学校組織づくり －S.C.Cにおける実践の協働プロセスを通して－
	2	小林 達郎 (津幡町立井上小学校)	若手教員のエンパワーメントを促進する「若手教員早期育成プログラム」の開発的研究

() は、現職院生の所属先

: 学習デザインコース : 学校マネジメントコース

お申込み
方法

参加を希望される方は、Webサイトの専用フォームからお申込みください。

<https://pdte.w3.kanazawa-u.ac.jp/forumregisterr6>

【申込み締切】 令和6年2月22日(木)



全 体 会

「教職大学院の取組」

【発表者】

大谷 実（金沢大学大学院教職実践研究科・教授）

西井 陽一（金沢大学大学院教職実践研究科・院生）

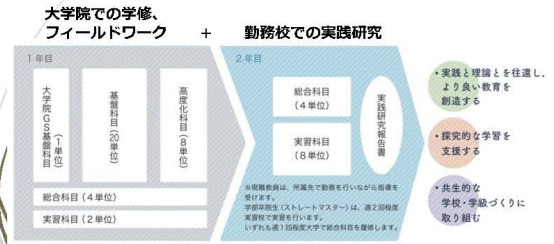
全体会 教職大学院の取組

金沢大学大学院教職実践研究科M1
西井陽一

1

教職大学院での2年間

M1 現職院生10人、学部卒院生 6人



2

カリキュラム内容

基盤科目	①教育課程の編成・実施	教育の本質的な理論や最新の実践を学ぶ
	②教科等の実践的指導法	
	③生徒指導・教育相談	
	④学級経営・学校経営	
	⑤学校教育と教員の在り方	
高度化科目	探究教育領域	両領域の理論と実践を学んだ上で、さらに深める
	共生教育領域	
実習科目	実践と省察を行うための実習	
総合科目	ゼミや発表会などで多様な学習内容を発展的に統合	

3

紹介する授業

- 探究領域** 地域社会と探究フィールドワーク
- 共生領域** 共生教育の理論と実践
- 基盤科目** スクールソーシャルワーク研究

4

地域社会と探究フィールドワーク

子どもの探究的な学びを促すために学習者の視点に立ちつつ、プロジェクト型の学びを体験する

テーマ「よりよい金沢の未来を創る」

未来のまち創造館

子どもの学びは「為すことが楽しい」が基本
「楽しいから続けられる」という
学びのあるべき姿を思い出した



5

探究で大切なこと

- ①アフォーダンス**
「やってみよう」と思える環境 → 好奇心・行動を引き起こす
- ②意味**
好奇心や興味・関心といった生徒にとっての意味から始まる学びが大切
- ③価値**
自分にとって意味のあるものも、突き詰めていけば社会的に価値あるものにも高めることができる
本物に触れることと寄り添いアドバイスする存在が必要

6

地域社会と探究フィールドワーク

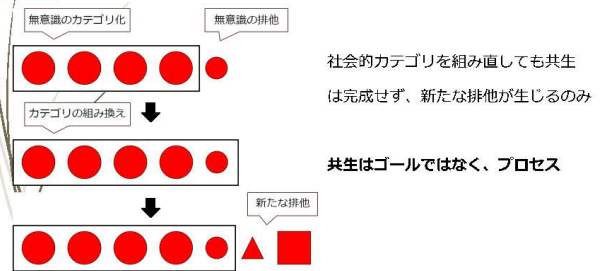
発表会



- 探究テーマ
 - ・金沢の地域性を生かした部活動の地域移行の在り方
 - ・減災のまち「かなざわ」を目指して
 - ・里山・里地の活用によるクマ対策
 - ・地域と学校が繋がるプラットフォーム
 - ・トレーニングをアフォードするスポーツジムのデザイン

7

共生教育の理論と実践



8

共生教育の理論と実践



■ 授業で学んだこと

- ・共生とは、**社会の凝集性と多様性の尊重を同時に成立させようとする**こと
- ・共感はいらない。**共感しなくても共生はできる**（その人の立場を尊重できる）
- ・共生のプロセスには必ずせめぎあいがある。いざこざ、トラブルが見えるようになってきたら共生が始まっている
- ・アンパンは、パンで、**あんこは同化させられた**（マジョリティの優位性）

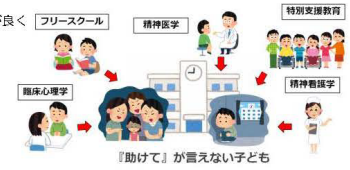


9

スクールソーシャルワーク研究

教育以外の領域が、「どう理解し、どうアプローチすることを提案しているか」

- ・「どんな自分をさらけ出しても、安心で安全な他者」がいる学校と家庭が大切
- ・学校には「あるべき姿の現い」が充滿している
- ・求めれば助けてもらえる／行動し状況が良く



10

スクールソーシャルワーク研究

失敗体験や行動矯正の場面ばかりだと不当に低い自己認識に

不当に低い自己認識



「誰のための教育か」という視点を持つ

適正に自己認識できるようにするために、多様な価値観の存在を伝える

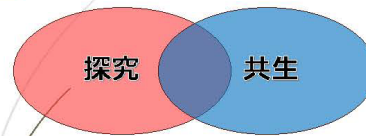
できているところをさきに認め、その上で不足する部分を指摘してあげる

できる自分を認める



11

まとめ



一人ひとりの実践研究へ

12